

令和4年度「千代田学」に関する区内大学等の事業提案制度 共同事業
自然災害発生時における大学を拠点とした帰宅困難者支援に関する研究
(2)教職員及び学生を対象とした帰宅困難者支援施設運営ゲームの開発

酒井 治子(東京家政学院大学) 伊藤 マモル(法政大学) 堀 洋元(大妻女子大学) 下坂 智恵(大妻女子大学短期大学部)
 近藤 壮(共立女子大学) 谷島 貴太(二松学舎大学)

目的

近年、地震や台風等の自然災害が発生しており、首都圏においても直下型地震やゲリラ豪雨などの予測困難な大規模自然災害にむけた対策が行われてきている。千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアムの5大学・2短期大学を含む大学では、千代田区と『大規模災害時における協力体制に関する基本協定』を締結し、「区民や一般の帰宅困難者の受け入れ」、及び「情報・食糧・飲料水などの提供」などの使命を担うことになっている。そこで、本事業の目的は、大学の施設運営計画や災害対応体制の再構築に関する課題を明確化し、災害復興や防災対策に役立てるために、千代田区における過去の災害の記録や記憶、また、防災に必要な情報・用品等をアーカイブ化することを目的とする。さらに、千代田区における災害対策・危機管理政策経営に資する教職員及び学生を対象とした帰宅困難者支援施設運営ゲームの開発のための基礎資料を得ることを目的としている。

研究内容・結果

【研究1】千代田区における過去の自然災害の歴史記録の集積と、帰宅困難者施設における防災に必要な情報・用品等の教材化

- ① 千代田区における過去の自然災害の資料を調査し、データベースを作成。千代田区の過去の自然災害のパネル展示を学生と企画し、過去の自然災害の歴史記録の集積。
- ② 災害時の簡単クッキングによる学生実習を2回実施。今まで学ぶことがなかった調理法により、災害時でも簡単に調理ができ、温かくて美味しい料理を作る技を学生が習得し、家族の分を作る自信も芽生えてきている。学生のデータを解析し、簡単クッキングのレシピを作成した。



【研究2】千代田区の災害に関連するトピックのWikipedia記事の編集を通して災害記憶に触れるワークショップ

「淡路公園」「南明館」という2つのトピックを題材として、取材を兼ねた街歩きを実施した。事前に準備した資料をもとにグループ作業を通して約半日のワークショップで二本のウィキペディア記事を完成・公開した。



【研究3】帰宅困難者支援施設運営ゲーム(KUG)の開発とワークショップ

令和4年9月～令和5年1月、教員、学生を対象に、各大学の一時的滞在者支援施設を縮小して作成された帰宅困難者支援施設運営ゲームを用いた図上訓練を実施した。

発災時において、帰宅困難者支援施設の開設に伴って、どのような安全・衛生管理、感染症対策、備蓄品、通信手段などの確保、情報提供体制など、施設運営に関する情報共有が必要であるのか、学生及び教職員間で協議しあい、臨場感を伴った体験ができた。



考察・まとめ

令和3・4年度の研究成果を踏まえて、各大学での帰宅困難者支援マニュアル作成のための基礎資料を得ることができた。令和5年度には、千代田区内の公共施設および企業と連携し、各大学のKUGの効果および帰宅困難者受入れ施設としての運営能力を検証するとともに、より精度を高めた施設運営ガイドラインを作成し、各大学で共有する。同時に、災害復興や防災対策に役立てるために、千代田区における過去の災害の記録、また、防災に必要な情報・用具等の動画コンテンツ等を再編集し、その効果を検証していくことを計画している。